

私は月曜日まで広島に行ってきました。3日間、聖書の特別なメッセージの集いで、講演者としてお招きを受けたので夫婦で参加し、到着後、歓迎会を開いてくれました。若い人たちがとても多い集会で、彼らはブラスバンドが上手です。毎回、新曲を披露してくれるのですが、今回は聖歌や讃美歌ではなくてアンパンマン・マーチ。「何で、アンパンマンやねん?」

何と、アンパンマンに登場する人物の着ぐるみを着た人が4人出て来ました。アンパンマン・ドキンちゃん・ばいきんまん・ちびおおかみ。この4人で聖書物語の「良きサマリヤ人のたとえ」をアンパンマン・バージョンで。それがすごく良かったんですね。ほおー!と。非常にコミカルなんですけど、やはり聖書のストーリーなので、つい涙腺がゆるんで。「こんなとこ、泣くところじゃない」というところで思わず感動したりして。良かった!

アンパンマンは、やなせたかし(柳瀬 嵩/1919-2013)さんが、50歳超えてから描きました。この漫画・アニメは、いきなりテレビではなくて絵本からのスタートです。第1巻から読んだ事がありますが、回を重ねる毎に、アンパンマンの顔がめちゃくちゃ変わって行く。

初期のアンパンマンは、今のとは全然違って、ものすごく黒い。ちょっとグロテスク。グロテスクなアンパンマンが、自分の顔をちぎって子供にやるって、めちゃくちゃグロテスク。それで出版社が「こんなのを子どもが見たら引く。これはあかん!」。やなせさんに、何度も出版を断念するように説得するんですが「いや、自信作です!」

やなせさんは戦争時代に青春を送った人です。弟さんは京都大学の学生でしたが、特攻隊で死にました。「何のために生まれ、何のために死ぬのか、分からないで生きる。そんなのイヤだ」という歌詞は、そこから来ているんですね。「弟は国のために生き、国のために死んだ。でも、それで良かったのだろうか?」「私の人生の目的は何だろうか?」

4歳児が歌うにしては深過ぎませんか?

「何のために生まれ、何のために死ぬのか、それが分からないで生きるのはイヤ!」って。

因みにドキンちゃんのモデルはお母さんです。やなせさんのお父さんは従軍記者でした。新聞記者として、中国の内戦に引き込まれていく日本軍にずっとついて行くのですが亡くなります。

やなせさんのお母さんは絶世の美人だったそうですが、自分の子供たちを置いて、毎週のように違う男性と連れ歩く。で、お母さんの事、好きじゃなかった。いや、好きになりたい。本当は好きなんですけど、息子としてがっかりするような場面が何度もあって。

ある時、全然知らない男性と歩いている着飾ったお母さんを見て、思わず「おかあさん!」と呼んだ。知らんぷりだったそうです。その時その時で、媚びを売るといふか何といふか、うまく切り抜けていく明るい・かわいい・だけどちょっと小憎らしいドキンちゃんは、やなせさんの生みの母です。

そうやって読んでいくと、コミカルなアンパンマンが、深い人生曼荼羅(まんだら) 図みたいな感じもする。そんな話をしようと思ってたんじゃないんですよ。戻しますね。

「やめなさい! こんな売れっこないから。売れないから!」という事で、アンパンマンの初版本はすごく少ない。いきなり5千部とか1万部とかじゃなくて千部くらい。ところが3年・5年経っていく内に、全国の幼稚園や保育園から「アレ、ないですか? 再版してませんか?」と問い合わせが来るようになった。アンデルセン物語とかグリム童話などの昔からある有名なものは、読み聞かせの時間に子供たちに読んでもあんまり人気がない。ところがアンパンマンだけは、読み聞かせが終わったら、子供たちが奪い合うようにして何回も読むんですって。その内にページがよじれ・こよりが外れ・落丁し・ボロボロになって、「新しい本に買い替え!」

やなせさんが言っているのは「作品の良し悪しは出版社が決めるのではない。読者が決めるのだ!」これは本当にそうです。どんなにプロの出版社が「売れないよ。ダメだよ」と言っても、読者である子供たちが「これ、楽しい! これ、面白い! すごい! 読みたい!」と言ったら続く。そして、同じ本が再版されるだけじゃなくて、シリーズになり・映画になり・アニメになり・歓迎会で劇になり、みたいな。やはり、そこに、何か人の心に訴えるものがあると生き延びていくのです。

ところで、聖書ほど憎まれた本はないです。聖書ほど燃やされた本はありません。聖書ほど破かれた本はありません。皆さんもクリスチャンになって、ご主人に破かれたという人が、中にはいるかもしれません。或いは、未信者の時に「こんなの、いらんわ!」と言って投げつけたりとか。私、目の前でそれをされた事、何回もあります。「こんなもん、いらんわ!」と、目の前でビリビリと破かれた時、心が傷んだのをよく覚えています。

こんなに人々の反発を受けた本はないのですが、こんなにもたくさんの言語に翻訳されて、こんなにも国境を越え、時代を越えて、世界のベストセラーになっている本はありません。なぜなら読者が決めるから。

聖書に出会って人生が変えられた人・神様の生ける言葉が心に入って内側から変わってしまった人・聖書を通して生きている救い主イエス・キリストと出会い、人生が変わった人は世界中にいます。世界中にいますよ! 昔「知ってるつもり」という番組があったけど、あれに出た中の6割・7割の人はクリスチャンだと言われています。人生を変えられた人たちが多いという事です。

どうして、人生が変えられていったのか? 聖書は格言とか諺として読まれているわけではありません。聖書の言葉を通して、現に、今生きておられるキリストと出会い、キリストがして下さったみわざによって罪赦され、永遠の命が与えられる事によって、人生が変えられて来たのです。つまり、聖書の主人公はイエス・キリスト。私もここで人生論を語っているわけじゃなくて、イエス・キリストを紹介しています。なので、是非キリストと出会って頂きたいなと思います。

今日は、キリストが十字架にかかる数時間前に弟子たちに語られた言葉の中から、一緒に考えたいと思います。聖書を読む時、何人かの方が目をこんなに細めて…もう大変です。どうぞ、お眼鏡を。老眼鏡じゃないです。お手元用と言うそうです。老眼鏡じゃない。お手元用をどうぞ。

**ヨハネ 14:1** **あなたがたは心を騒がせてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。**

心騒ぐ状態とはパニック・不安・動揺・恐怖・心が落ち着かない状態。心が落ち着かないと、心配事で心がいっぱいになっていると、美しいものを見ても余り感動できないし、美味しい物を食べていても余り味がしないし、人が話しかけてくれても上の空で、「あ、今何か言った?」

心の中は騒いでいる状態よりも、全き平安・揺るがない喜びの中で生きるのが一番いいと思うんです。

そうなのですが、そうしたいんだけど、次から次へと問題が起こって、中々平安でいる事ができない。平安であるためにはどうしたらいいのか？

神を信じ、またわたしを信じなさい。「この世界を造られた真（まこと）の神様がおられて、その方が私を本当に愛しておられるんだ!」という事を、まず信頼しなさい。絶対に信頼できる方がおられるという事を、まず思い出しなさい。

ところで今、全米オープンテニスをやっていますね。テニスの世界大会はたくさんあるのですが、4つの大会が特に重要です。その1つが全米オープン。準決勝/ベスト4まで日本人選手が男女共に残っています。女子は大坂なおみさん。大阪市の大阪じゃないけど。

そして、男子は錦織圭さん。試合する前にネットの前で握手しますが、相手選手チリッチとは大人と子供みたいに身長が違う。2m近い人と170cm台の錦織選手。2m近い人が手を伸ばしたらもっと高い。テニスのサーブは上から打つから、上からズドンと来るような。下からやったら羽子板。それに勝った! それで今ベスト4。

錦織さんは2014年から突然強くなりました。コーチを替えてから。そのコーチはマイケル・チャン(1972-)という台湾系アメリカ人。17歳3か月で世界ランキング2位になり、4大会の1つで優勝した人で、体格が錦織圭さんと一緒。「小さい奴がでっかい奴と闘って勝つためには頭を使わないとだめだ。小が大を倒すためには作戦を立てなければならない。大をあちこち動かしてひっかけ回すけど、自分ではできるだけ動かないようにしなければならない。」そのためにはどうしたらいいのかを伝授していくのですが、そのコーチによって、メキメキと強くなっていきました。

マイケル・チャンはクリスチャンです。ホームページには「私がなぜテニスを教えているのか? それは、テニスを通してイエス・キリストの真実を宣べ伝えるためです。」

彼はなかなかの鬼コーチで、ある時、錦織がストレッチをするために試合の1時間前にコートに来た時激怒しました。「おまえ、ホンマに勝ちたいんか?! 何で、1時間前にコートに入るんだ? なぜ2時間前じゃないんだ? 3時間前じゃないんだ?」って、いつ入ったらいいの、これ? 手足が短い人は、柔軟性で開く角度を広角度にしないとダメなのに「1時間で開くか!」。テニスの事になったら非常に厳しいそうですが、それでドンドン強くなっていきます。

もう1つ。マイケル・チャンは錦織選手のメンタル・考え方を教えていったと言うんです。ある時「君、尊敬している選手いるの?」「はい。ジョコビッチとかナダルとか。」何人が選手の名前を挙げて「この選手のこういうところ、もうスゴイと尊敬してるんです。こんな人と決勝で会えたら、どんなにいいか!」

自分の憧れでもある選手たちをほめちぎっていたら、それを遮って「君、それは尊敬じゃなくて崇拜じゃない? 彼らは、やがて君が倒さなければならないライバルでしょ。ライバルを崇拜してどうする? 自分が拝んでいるものを、どうして倒す事ができる? よく聞きなさい。人が崇拜していいのは神だけだ。神未満のものを崇拜してはならないんだ。自分が拝んでいるものによって縛られてしまうんだ。君がライバルたちを神のようにあがめている限り、倒す事はできない!」

「じゃあ、私は彼らをどう思ったらいいのでしょうか?」「『のけ!』と思いなさい。『そのポジションは俺が取る。のけ!』というつもりでコートに立つ。『一緒に試合ができて光栄です』は違う! 叩きのめすんだ!

人が恐れているのは神だけだ!」

真に恐れるべき方を恐れるというのは、恐れなくていいものは恐れなくなるんです。恐れなくなり易くなります。私は色んな所の講演で、300人とか2000人とかの前でお話した事がありますが、やっぱり怯える。「大丈夫かな、大丈夫かなあ…」緊張して喉がカラカラ。でも「ああ、被造物だ」と思ったら、「被造物が2000個並んでる」と。いやいや、それはちょっと失礼でしたね。まあ、人やん。神じゃない。

「神を恐れよ。」「神を信じなさい。」という事ですよ。真に恐れるべき神すら恐れなくなって、「神なんかいない」という生き方になったら、人はどうなりますか? 不遜な人になるんじゃないですか? 傲慢に。恐れるべきものを持つべきです。それは唯一です。あなたをお造りになった真の神を恐れる。

ここでマイケル・チャンが言っている神とは、それぞれ色んな神様がいるから、それを崇めたらいいというわけではありません。マイケル・チャンはクリスチャン。だから、彼が「神」と言う時は「聖書の神」です。聖書の神とは何度も説明しているように、人が作った神々ではなくて、人を造ったあなたの作者。世界の作者。造り主。第一原因者。

以前説明した事があるかもしれませんが『新発見の発想法』という新書。これが面白い。対談本。2人の日本人ノーベル賞学者が対話している本で、もう面白い。対話の本は疲れません。その場に自分がいるような気がして。

対話しているのは、益川敏英(ますかわ としひで/1940-)さんという量子物理学者と、iPS細胞の山中伸弥(やまなか しんや/1962-)さん。2人ともノーベル賞受賞の科学者。1章から5章・6章までであるかな。最後の章が「神はいるかどうか」なんですよ。ノーベル賞科学者が神について討論する。

益川さんには学生時代も研究者時代もあだ名があって「いちゃもん益川」。すぐ人の言葉尻をつかまえて「それ、さっき言った事と矛盾してるんじゃない?」「それ、おかしい。そんな事、誰が証明したんだ?」いちゃもんつける。ある時、湯川秀樹(ゆかわ ひでき/1907-1981)さんに向かって、そう言ったって。湯川秀樹って、日本で初めてノーベル賞取った人ですよ。その湯川さんにあんまりいちゃもんつけるから、彼が怒って、話の最中に席立って出て行っただと。それが武勇伝になっている「いちゃもん益川」さん。友達になりたい。非常に賢い人です。賢いけど、国際政治について、二言も三言も、この人に言い返したい事がある。でも今日は、それはいいです。

山中さんは、ものすごく不器用なんですって。中学・高校・大学10年間、1つのクラブに入っていました。柔道部。2段ですよ、山中さん。有段者ですが、めちゃくちゃ不器用で、この10年間に10数回骨折した。受け身…下手なんちゃう? 柔道は骨折する事もあります。オリンピック強化選手だったら、いつも傷だらけ。だけど、進学校の放課後の柔道部で、なんで毎年1回以上ボキボキ骨折るの? でも、これが彼の人生を変えたって。あんまり折るので、その度、外科医に治療してもらおうのですが「外科医っていいなあ」という事で、進学先は医学部にしたそうです。怪我の功名。

ところが、外科医は切ったり・縫ったり・縛ったりしなあかん。で、不器用なんです。受け身できないからね。受け身できない人に、腹、開いてもらいたいですか?

教授・先輩・果ては同僚の仲間からも「おまえ、不器用やなあ。のけ!」「おまえ、邪魔!」。邪魔だから「じゃまなか」。山中じゃなくて「じゃまなか」というあだ名をつけられ、「俺は医者には向いてない」と、医者をやめて研究者になる。研究者だったら手先とか関係ないし。という事で、研究室へ行くプロセスの中でiPS細胞。これは夢の細胞じゃないですか。あらゆる臓器に変化する可能性がある細胞。

iPS細胞を作るのに癌細胞・癌の遺伝子を使います。何ですぐに使わないのか？癌化するかどうかの見届けが必要なので、すぐには話が進まない。まさか人間が憎みまくっている癌が、人間の身体を再生する細胞になるなんて、誰が思いつきます？「じゃまなかさん」がやった。

皆さん、この間、理研でiPS細胞を作ったんですよ。遂にハゲの根本治療が実証されたんです。理研で。理化学研究所で。この前、ある兄弟たち（クリスチャンの仲間）と話していたら「それ、保険きくん?!」ききません。何の話や。

この2人が最後の章で「神はいるのか」を論じている。

山中) アメリカ人は半分以上の人々が、未だに進化論を信じていないんですよ。

益川) そうだよ。日本人は「進化論を信じないで、神が人間を造ったと信じているって怖い事だ。進化論を信じていない人が国民の半分以上いるなんて、恐ろしい事だ」と思うかもしれないけど、実は進化論を信じるという事も、ある面、怖い事なんだよね。

山中) そうですよ。だって進化論って、一度も証明された事がありませんからね。

益川) そうなんだよ。一度も証明された事がない。日本人は何となく、ヒトはサルからできた、進化したと思っている。「神が造った」というのと「サルから進化した」という考えがあった時、何となく「サルから進化した」という方向ばかりを考えている。でも、誰も証明した事がない。

ここで山中さんの決定的なひと言。

山中) そうですよ。もしかしたらもうすぐ「ダーウィンの進化論は間違いでした!」と言う日が来るかもしれないですね。

結論からいうと、益川さんは「私は神を信じない」という立場です。

「神が世界を造ったという事を受け入れてしまったら、もう科学者の仕事なくなる。この世界がどのように成り立っているのかを探究していくのが科学。神が造ったと言ったら、もう究極の答えが出た事になるから、科学の進歩なくなるんじゃないか?」

心配しているのであって、頭から否定しているんじゃない。しかし「神が造った。でも、どのように造ったのか?」という事を探求するのが科学だから、科学と神を信じる事は矛盾しません。

ニュートンはじめ、古典力学の学者や天文学者は、みなクリスチャンです。

ところで、「p53」という遺伝子があります。「p」（小文字）はプロテイン・蛋白質の事。プロテイン 53。これは癌に取りついて撲滅してくれる遺伝子。もう1つ役割があって、奇形を防ぐ遺伝子です。

なので、人工的に p53 を取り除くと、奇形の子供が生まれたり、癌になったりする。奇形を防ぐという事は、その種類を維持する事ができる遺伝子と言う事もできます。

人間だけじゃなくて、全部の動物・生物・全ての生命体に p53 が存在している。全ての生命体に奇形を免れる遺伝子があるという事は、本来の姿をキープし続けるという事。つまり、ずっとさかのぼっていったら、全ての生き物が進化し、別の生き物に変化して、このように世界が多様化したのではなく、「最初から種類に従って、それぞれのかたちに造られた」という方が合致するんです。

聖書は「神様が全てのものを種類に従ってお造りになった」と言っています。イヌはイヌとして、ネコはネコとして、キリンはキリンとして、人は人としてお造りになった。という事を、遺伝子の次元で実証しているのが p53 です。



マイケル・チャンが言っている神様は人をお造りになった方。「私たちの創造主・私たちをお造りになった第一原因者を信じなさい。この方は私たちを愛して下さっているから。親が子供を案ずるように、子供の世話をするように、創造主なる神様が私たちを愛して見守って下さっているんだよ」という事です。ところが、創造主を信じるだけでは不十分なんですね。「この世界は偶然じゃない。第一原因者がおられる」というのは、多くの人たちが認めている事かもしれません。

しかし、**ヨハネ 14:1** **あなたがたは心を騒がせてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。または「それと同じように」。わたしは「イエス・キリスト」。**「神の存在を認めるだけではなくて、神が遣わされた救い主イエス・キリストを神として信頼しなさい。」

神のひとり子が人となってこの世界に来て下さった。それがイエス・キリスト。イエス・キリストは100%神にして100%人です。私たちが目で見・じっと見・聞き・触れる事ができる方として、この世に来て下さった方。

ここにおられるので許可なく申し訳ないんですが、ある時〇〇さんが話された事で、ものすごく感動して忘れられない事があるんです。(〇〇さん、覚えてます? ほな、言ってもいい?) さっき、ふと思い出しました。(社会人になってから、クリスチャンになられたんですよね?) 詳しい事はご本人に聞いて下さいね。彼女は神様が自分を愛している事が、中々ピンとこなかったそうです。だって、神様は見えないから。さわれない。臭いも嗅げない。「目に見えない神様が私を愛してる」と言っても「おお! そうか! ズシーン!」とは来ない。分からない。

ある土曜日、ちょっと朝寝坊して洗面台の前に立ったら、髪の毛ふわー!(ごめんなさいね。) 起きたてで、目やにがどわー! いやいや、そんな事ない。誰だって、起きた時はそうじゃない。起きた時、ビシッて決まったらおかしい。仕事も大変だし、疲れてるし、そのふわーってなっている姿を見た時「こんな私を誰が愛してくれるだろう…」と何となく思っていたら、後ろからお母さんが来て「この娘(こ)、何てかわいいんでしょう!」ギューッと抱きしめられた。「その時突然、神様の愛がピンと来た!」という証しでした。

私、それ聞いた時、実は涙が止まらなかったんです。愛はやっぱり、さわってもらったり・聞こえる言葉で語りかけてもらったり・アクションしてもらったり・見えたり・それで実感あるんじゃないですか。髪も全然セットしてない、その状態で「何てかわいいんでしょう!」。親だから。親にとって、子供は可愛くて可愛くて仕方がない。同じように、神様は私たちを愛して愛して愛しておられる。

**ヨハネ 14:1** **神を信じ、またわたしを信じなさい。**

私たちの魂の親である方を信じなさい。私たち自身が、「本当に神は私を愛して下さっている」と実感するために、人となってさわれる方・聞く事ができる方・見る事ができる方として、この世界に来て下さったイエス・キリストを信じなさい。

どのタイミングで言われたのか? 十字架にかかる直前です。この数時間後に、キリストは十字架にかかりました。つまり「わたしは十字架にかかって、あなた方のために死ぬ。わたしが十字架にかかるのは、ただ死刑にされるためではなく、あなた方の罪の償いのためだという事を信じなさい。あなた方の救い主として十字架にかかるという事を信じなさい」という意味です。

広島で子供たちに話したのですが、以前、埼玉県集会にお招き頂いた時、入間川(いるまがわ)に案内してもらいました。何の変哲もない、別にきれいな事も何という事もない都会の川。

河川敷の両側には民家が密集していて、小学校も中学校も高校も、スーパーマーケットも映画館もある住宅地。密集状態。その入間市のすぐそばに、航空自衛隊の入間駐屯基地があります。そこで、今から20年くらい前に事故が起きました。墜落事故。T-32だったか33だったか…T-33にしておこう。これはアメリカから下げ渡された練習機で、この段階で製造から49年経っていました。

今は、地震や洪水や土砂崩れなどで、自衛隊はあちこち引っ張りだこでしょ。でも20年前は、自衛隊の人たちは、随分と日陰者扱いされてました。はっきり言って、今でも全国の都道府県の中で、自衛官公募に協力している地方自治体は6つくらいじゃないですか？ 正確な数は分かりませんが。助けに来てもらいたい時は、いの一番に呼ぶんだけど「募集のためには協力しませんから！」という、そういうものが蔓延していますよ。

このT-33、Tはトレーニングの意味。練習機です。それにAさんとBさんの2人のパイロットが乗っていました。Aさんが確か47歳、Bさんが48歳。

Aさんは、この事故の前の年の航空自衛隊パイロットコンテストで優勝している人。トップガン。すご腕の操縦士。航空自衛隊の猛者たちが操縦技術を競い合うコンクールの優勝者です。

また、航空自衛隊では人格・操縦技術・指導力の3つでベストスコアの人をベストガイと言って、いわゆるパイロットの鑑として表彰するのですが、Bさんは第1回・初代のベストガイ。

2人とも4000-5000時間飛んでいます。パイロットの世界では2000時間超えたらベテランですが、2人とも、その2倍以上飛んでいる。つまり、航空自衛隊のパイロットの中で1番できる人たち・最も技量の高い2人が、技能の維持のためにT-33というオンボロ練習機で飛んでいて、飛行の最中にエンジンが止まってしまった。

ところで、私たちが乗る旅客機の民間航空機と、戦闘機やトレーニング機・爆撃機・作戦機には決定的な違いが1つあります。それは、後者には脱出装置が付いているという事。だから墜落するとなった時、ボタンを押しすれば、座席ごとバーンと高い所まで飛ばしてくれて、自動的にパラシュートが開き、パイロットはゆっくり落ちる事ができるんです。

なぜなら、最も費用がかかるのは機体じゃなくてパイロットだから。パイロットこそ宝。

空軍機にはこの脱出装置がついている。だけど使わなかった。「今脱出したら助かる！」にも拘らず、なぜ使わなかったのか？ 下には民家が密集していたから。

今自分たちが脱出して助かったら、機体はそのまま墜落して小学校に・高校に・民家に落ちてしまう。

それで、エンジンが止まったままの状態、河川敷までずっと無理に操縦するんです。無理に操縦して操縦して、もう大丈夫という時には100m切っていました。100m切った所で脱出しても、もうダメなんです。バーンと上には飛びますが、パラシュートが開く前に地面に激突するから死んでしまう。

入間市民の上に大変な事が起こってはいけないというので、人家がない河川敷に行くまで脱出装置を使わず、2人とも死んだのです。どちらにも小学生のお子さんがいました。

それを、広島で小学生たちに話しました。「こんなお父さんならどう？ 誇らしいじゃない。」

逃げようと思ったら逃げられるのに、敢えてそうしなかった。自分の命と引き換えにして、地上の民家を守った。これは、イエス様がして下さった事のひな型だと思います。キリストは私たちの罪を背負って十字架にかかって下さったのですが、それは義務ではありませんでした。

イエス・キリストには、十字架から降りる自由がありました。

十字架につかなければならないという義務は負っていなかったのです。

「人の犠牲になるなんて嫌だ!」と言って逃げ出す事・脱出する事ができた。にも拘らずそうしなかった。なぜか? これ以外に、私たちの罪が赦される道はないからです。

「あなた方のために、わたしは罪を永久に償うための十字架につきます。そのための十字架である事を信じなさい」という意味が「**わたしを信じなさい。**」ただ滅びるためじゃない。あなた方の罪の赦しのために十字架にかかった救い主として、**わたしを信じなさい。**

**ヨハネ 14:2 「わたしの父の家には住む所がたくさんあります。そうでなかったら、あなたがたのために場所を用意しに行く、と言ったでしょうか。」**

わたしの父とは父なる神様の事。キリストがここで言っているのは「十字架で死ぬ」という話の後、「あなた方のために、天国にあなた方の住まいを準備するために、わたしの父の所に行く。」

死んだ人がどうやって行くんですか? これは「復活します」という預言・約束です。

「天国にあなた方の家を用意するために、わたしは死んだきりじゃなくて、死んで3日目に復活して天に昇ります。」これを「昇天」(しょうてん)と言います。「復活して、わたしが天に帰って行くのは、あなた方の家の準備のためですよ。」昇天の目的は、「あなた方のために家を用意する。」

だけど、備えるだけではない。キリストは天に昇って、私たちのため、皆さんがイエス・キリストを信じるように、この救いを受け取るように祈り、執り成しておられる方。

そのために、天の父のところに行くという事です。

明治時代のベストセラーは『学問のすゝめ』福沢諭吉(ふくざわ ゆきち 1835-1901/天保5-明治34)。

大正時代のベストセラーは『死線を越えて』賀川豊彦(かがわ とよひこ 1888-1960/明治21-昭和35)。

彼はクリスチャンです。私は、彼には今でも世話になってます。というのは、私は生協のメンバーです。賀川豊彦がコープを造りました。

彼のお母さんは芸者で、あるお金持ちの男性の妾でした。ところがお母さんが死に、お父さんも死んでしまって引き取り手がいない。行きがかり上、男性の正妻だった女性が引き取るけど、彼をものすごく憎んでいる。だから少年時代、家の中に居場所がなかった。ふた言目には「芸者の息子!」「私生児!」。辛くて辛くて「何で、こんな身の上なんだ!」と我が身を呪うようでした。

しかし思春期の時、近くに教会ができ、宣教師が英語を教えてくれるので通うようになって、イエス・キリストの話を聞きます。「イエス様は子供の時、私生児扱いされていました。イエス様がキリストとしての働きを始めた時も、当時の人たちは『処女から生まれたなんて、そんなばかな!』と言って信じなかったのです。でも、イエス・キリストには全く劣等感がありませんでした。その生まれ方には意味がある事をご存知だったからです。キリストは人として、この世界に来て下さったのです。」

「私生児扱いされていた」というのを聞いた時、キリストと自分が一気に近くなった。「キリストはなぜそこまでして下さったのか? それは、私の罪のために十字架にかかるためだったんだ」という事が分かって、彼はイエス・キリストを信じてクリスチャンになりました。

その後、結核にかかって余命2年と言われ「1回しかない人生、後悔したくない。」それで、神戸の新川(しんかわ)という、当時はスラム街に行きます。彼が入った長屋の壁に茶色い模様がブワーって付いているので、大家さんに「この茶色の模様、何ですか?」と聞いたら、前に入っていた住民が日本刀で切り



合って、その血しぶきがそのままになってると。壁紙替えてよ。入った初日、隣のヤクザに、持ってる財産を全部ゆすり取られました。

そういう所で、彼は自分の生涯を『死線を越えて』に著わしていきます。やがて英語・フランス語・ドイツ語に翻訳されて世界のベストセラー。世界的に有名になりました。

しかし戦争が始まった時、リベラルな発言が多いというので、軍部に目を付けられてしまいます。でも彼を逮捕したら、世界的有名人なので国際世論が黙っていない。それで軍部は瀬戸内海の島・豊島（てしま）に閉じ込めました。

「神様、『今から活躍するぞ!』という時に孤島に閉じ込められて、しかも余命2年は越えたけど、いつ死ぬかも分からない状態で、人に会えないような所に缶詰めにされるのはかなわんです!」と言うのですが、神様は「そこにいなさい。」それで、閉じ込められました。「うまくいかないなあ。」

ところが、この島に閉じ込められたおかげで、①国粋主義者による暗殺から一切守られました。もし彼が自由に活動していたら、226事件の後、昭和の時代は滅茶苦茶でしたから。②ここは非常に温暖な気候で、オリーブやみかんの産地として今でも有名ですが、閉じ込められている間に結核が完治しました。③戦争が終わって出て来た時、「賀川が生きてた!」という事で、世界中から彼に募金が集まり、そのお金を使って戦後日本復興のために活躍するのです。

ほんとに活躍する時まで、神様がそこに留めておいたんですね。

「クリスチャンになったら、やる事なす事、全部願い事がかなって上手くいく」というものではありません。「何でこんな事が起こるんだろう?!」という事もあります。それも全部、天で執り成しておられる方が、1番いいタイミングで1番良い事をされるのです。「私のために、全知全能の神がプランを練り、執り成して下さっている」という事を知る事は、大きな勇気となるのではないのでしょうか。

**ヨハネ 14:3** わたしが行って、あなたがたに場所を用意したら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしがいるところに、あなたがたもいるようにするためです。

また来ては再臨です。キリストはクリスチャンたちを迎えるためにまた来ます。キリストが空中まで来た時、全てのクリスチャンは一瞬にして姿を消すのです。

どこに行く? わたしのもとに迎えます。キリストの再臨はいつあるの? あなたがたに場所を用意したら。場所を用意し終えた瞬間にキリストが来て、クリスチャンたちは忽然とキリストの元に迎えられます。わたしがいるところに、あなたがたもいるようにするためです。

① 過去の罪は十字架で赦され、② 現在進行形の苦難の人生に於いては、神の執り成しの庇護の下にあり、③ 未来に於いては、キリストが再臨して、私を栄光の体に変えて、天に連れて行って下さるという望み。それが、聖書が語っている福音です。

私は若い時にキリストを信じました。本当に良かったと思っています。

皆さんにも、是非イエス様を信じて頂きたいと願っている次第です。

どうぞ、イエス様を救い主として信じて下さい。心からお勧めします。

---

\* 動画は YouTube で「[HCA 東住吉キリスト集会](#)」検索。ぜひ見て下さい。

\* ラジオ番組「[聖書と福音](#)」(15分)も是非どうぞ。スマホでいつでも聞けます。 動画筆記: Rumi

